

目的 我が国の上水道普及率は、昭和60年3月現在93.1%に達し、衛生的な飲料水が確保されているかにみえる。しかし、今日の都市形態、生活様式の変化に伴い、飲料水の供給に関して種々の問題が起きてきている。特にビル、マンション等の中高層建築物の給水は、水道水を受水槽に受けて高置水槽に導き供給するのが一般的であるため、この受水槽の衛生管理の欠陥による、安全衛生管理面からの事故やトラブルが報告されている。そこで、私共は市川市の中高層マンションを対象として飲料水の安全性を確認するために調査を行った。

方法 水道の蛇口から無菌的に検水を採水し、残留塩素濃度、水温、PH、臭味の測定をその場でただちに行い、一般細菌数、大腸菌群の測定は、検水を実験室に持ち帰り行った。残留塩素は、オルトトリジン法(残留塩素計)で、棒状温度計にて水温を、PHは、万能PH試験紙を用いた。一般細菌数は、標準寒天培地を用い、37℃48時間培養し、大腸菌群は、変法グルタミン酸培地を用い、37℃48時間培養した。

結果 一般細菌数は、基準を越えては検出されなかったが、50検水中13検水(26%)から、45個以下の細菌数を検出した。大腸菌群については、すべての検水から検出されなかった。残留塩素は、基準以下のものが20%、基準の5~6倍のものが36%検出された。PHは、5.0~5.6の範囲であり、臭気は、塩素臭を感じたのが全体の66%となった。以上のことから、おおむね、衛生的に満足な管理がされていると考えられる。